

平成 31 年度事業報告について
(平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

1. イベント交流活動事業

(1) 「2019 北海道スカイスポーツフェア 当麻」の開催

- ・テーマ 「楽しもう 当麻の空で」
- ・日時 令和元年 7 月 21 日 (日) 7:00～14:30
- ・場所 当麻スカイパーク
- ・主催 (公社) 北海道スカイスポーツ協会
- ・協力 NPO 当麻航空協会、旭川航空協会
- ・後援 国土交通省北海道開発局、北海道、旭川市、当麻町、当麻観光協会、
(一財)日本航空協会、(一財)北海道開発協会、(一財)北海道河川財団、
(一財)石狩川振興財団、(公社)北海道観光振興機構
- ・協賛 (株)ドーコン、(株)北海道銀行
- ・同時開催 「第 33 回当麻スカイスポーツフェスタ」
- ・来場者数 3,200 人

・概要

令和となって最初のフェアとなった当麻での大会は、前回当協会発足以来初めて悪天候により中止となった経緯があり、異常気象傾向の中天候が特に心配でしたが、当日は、朝からの好天微風で絶好のフェア日和となり、周辺市町村や旭川・札幌圏からも多数の来場者を迎えて無事開催することができました。会場の「とうまスカイパーク」は石狩川の河川敷にあり当麻航空協会が当麻町より管理を受託し日常の活動に利用していますが、当日は駐車場や通路の草刈り等旭川河川事務所の協力を得て整備され、来場者動線確保など会場運営は支障なく円滑に行われました。

大会メニューは毎回体験プログラムに力を入れていますが、熱気球とヘリコプターの体験搭乗には定員を超える大勢の人が並び、早朝から大会気分を大いに盛り上げ、幸先の良いスタートとなりました。また、子供達対象の SS 教室にも定員約 100 名を超える参加があり、自作品での模擬競技会には例年より多くの家族連れで賑わい、将来の愛好家へと育ていただければと願うところです。

デモフライトでは、恒例となった 2 人のスカイダイバーが当麻町旗と大会旗をなびかせて目標地点に見事着地し、町長と本部長にそれぞれの旗を返還した後、町長からは歓迎の挨拶を頂くセレモニーを行いました。その他スポーツカイトによる「令和」の 100 連凧、グライダーの演技飛行やマイクロライトプレーン、多種類のラジコンなどプレーヤーは日頃の鍛錬の成果を見事に披露し、子供たちが空への夢を広げるのに十分な効果があったものと思います。

アトラクションでは、郷土芸能「当麻蟠龍太鼓」の力強い演奏が会場に響き渡り、地元産品や軽飛行機・モーターグライダーの体験搭乗券などが当たる「お楽しみ抽選会」でも大いに盛り上がり楽しんで頂くことができました。

ご後援、ご協賛いただいた関係機関、団体、企業等の皆様、また、大会準備、大会運営にご支援いただいた当麻町、本部役員、各スポーツ団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

・プログラム実施内容

○飛行展示（デモフライト）

グライダー、マイクロライトプレーン、モーターパラグライダー、スカイダイビング、模型飛行機（ラジコン）、スポーツカイト、

○地上展示

グライダー、軽飛行機、マイクロライトプレーン、モーターパラグライダー、模型飛行機（ラジコン）、スポーツカイト、熱気球（籠）

○体験会

モーターグライダー、軽飛行機、パラグライダー、模型飛行機（ラジコン）操縦、スポーツカイト操作、熱気球（バルーン）、ヘリコプター（有料）

○スカイスポーツ教室、模擬競技会

竹とんぼ、紙飛行機、凧づくり

○アトラクション

当麻蟠龍太鼓、お楽しみ抽選会、凧揚げ（「令和」100連凧）

○グルメ、物販コーナー

地元商工会からの出店

（2）スカイスポーツ競技会への支援

①「第18回 HOSPA 杯争奪スケールアクロ競技会」北海道模型航空連盟

- ・開催日 9月1日(日)
- ・場所 苫小牧 RC クラブ専用飛行場
- ・参加人員 21名

好天に恵まれ、4クラスに分類された競技を各2ラウンドずつ実施した。

②「第15回 HOSPA CAP in 島牧」北海道ハグ・パラグライディング連盟

- ・開催日 10月5日(土)～10月6日(日)
- ・場所 島牧村歌島高原
- ・参加人員 13名

競技会1日目、2日目とも青空が広がり日本海を望む景色が素晴らしかったが、風の状況が悪く競技を開くことは断念し、ニセコエリアに全員移動してフライト技術の研鑽に努めた。このエリアはロケーションフライト条件共にフライヤーにとって魅力のあるエリアであり今後も引き続きチャレンジしていく方針。

（3）スカイスポーツ関係者交流会の開催

- ・開催日 12月3日(火)
- ・場所 札幌市 参加者 8団体 11名

フェア開催時に集合する以外には年に1度のこの交流会がSS団体が一堂に会する唯一の機会。各スカイスポーツ団体の活動状況やスカイスポーツフェアに関する意見交換などに盛り上がりを見せた。

啓発普及活動事業について

（1）広報誌等の発行による啓発普及

- ①広報誌「あえる」第61号発行 1月15日付（2,000部）

会員、スカイスポーツ団体、関係法人のほか、札幌観光案内所(JR 札幌駅構内)等幅広く配布。ホームページにも全頁掲載し、今後開催予定の各種講習会・体験会・SS教室や北海道スカイスポーツフェア来場者にも配布する予定。

②スカイスポーツイベントカレンダーの発行

道内各団体の主要イベントを収集し4月に発行。関係者他一般に配布、ホームページにも掲載した。

(2) 情報収集提供

①ホームページの活用

当協会案内の更新(事業計画・決算情報等開示)、広報誌(あえる)、スカイスポーツイベント情報、北海道におけるスカイスポーツガイドブック、主催・共催事業のお知らせ・トピックス等の外、フェアのDVD動画を掲載し、実施状況が閲覧できるようにしている。ここ数年当協会ホームページのアクセス件数は順調に増え月平均2000件を超えている。

②後援共催等イベント支援事業

・「第46回北海道バルーンフェスティバル」 上士幌町 8月10日(金)～12日(日)

(3) 体験会の開催

①パラグライダー無料体験講習会 北海道ハング・パラグライディング連盟と共催

開催日	7月21日(日)	8月3日(土)・4日(日)
場所	ピップ北峰スキー場	赤井川(冷水トンネル横の草地)
参加人員	3名	26名

今年度は旭川と赤井川の2か所で実施、今回からインターネットでの募集を試みたが関心は高く期待以上の参加者が体験し好評であった。

②みんなのスカイスポーツ教室

スカイスポーツフェアの中で竹とんぼ、紙飛行機、凧作り教室を開催した。

(4) 安全講習会等の開催・支援

イ、安全講習会の開催・支援

○マイクロライトプレーン

※ 主催者ウルトラライト航空連盟の事情で次年度4月開催に変更となった。

○ハング・パラグライダー

開催日	4月14日(日)
場所	八雲町噴火湾パノラマパーク内
主催	北海道ハング・パラグライディング連盟
共催	(公社)北海道スカイスポーツ協会
テーマ	グライダー、キャノピー等使用機器類の適切な選択と運用 航空法：飛行禁止空域や通報が必要な空域等
講師	田代茂樹 JHF 教員検定員、JHF 安全委員
参加人員	7団体 18名

ロ、指導者研修会の支援

○グライダー（北海道滑空協会主催）

開催日 10月26日（土）、10月27日（日）
場所 たきかわスカイパーク
講師 清水拓智 滝川スカイスポーツ振興協会
内容（実技実習）異常姿勢からの回復操作の実施手順
参加人員 4団体5名

○ハング・パラグライダー（北海道ハング・パラグライディング連盟）

開催日 5月25日（土）、5月26日（日）
場所 ルスツフライトエリア（留寿都村）
講師 検定員（北海道）田代茂樹 福田武文（茨城県）
内容（実技実習）グランドハンドリング、フライト実技、機材セッティング等
参加人員 受講者10名、検定員2名

ハ、安全対策検討会

開催日 12月3日（火）
場所 北海道銀行別館ビル4階会議室
参加者 出席5団体6名・事務局4名
内容 今回は各参加者から所属団体の取り組み状況や反省点とフェア実施時における安全面での現状の課題も含めて、かなり具体的に話し合いが行われ有意義な検討会となった。

3.その他の主な活動

開催会議

平成31年4月18日（金）平成31年度第1回理事会
令和元年5月22日（木）平成31年度定時総会
令和2年3月19日（木）平成31年度第2回理事会（理事会決議の省略）